



### 仙山交流に力を入れるべきではないか

村岡 藤弥 議員

力を入れていきたい  
町長

#### 物産振興対策

具体策は、

町長 今年度は物産交流事業の予算を増額し、6次産業化の推進を図りたい。秋以降、町と商工会が連携した「商品加工技術講習会」の開催を予定している。

東京や仙台、山形市でトップセールスを行っているが、交流人口を増やすには遠い東京よりは隣の仙台、仙山交流に力を入れるべきではないか  
町長 そのとおりで、大石田町に訪れるひとの8

割は仙台圏であり、さらに力を入れなければと思う。

直接出向いての物産交流もいいが、マスメディアを利用した展開は考えないか。

町長 商工会や商業部会など物産関係者から声を聴きながら判断していく。

西瓜や蕎麦は有名だが持ち帰る「名物、物産品」の開発を考えなければならぬのではないかと。

町長 名物は買い求めていただいで創り上げていくものと考えている。



増水で通行止めになった大橋

#### 水防は大丈夫か

7月18日の大雨で最上川の水位が羽越水害に次ぐ観測史上第2位の16m66cmを記録した。ハザードマップは活用できるのか。

町長 近年、時間雨量100mmを越す猛烈なゲリラ豪雨が全国各地を襲っており、ハザードマップに対し国の基準の全面的な見直しも考えられ注視していく。

避難勧告、避難指示が発令された場合、消防団は内水処理対応などがあり避難の指示や誘導はできない。誰がどの範囲に指示し、どこにどのようなルートで避難するのかを示したマニュアルはあるのか。

町民税務課長 行政は避難勧告、避難指示を出すのが、強制的に避難所に連れてはいけません。今回の教訓を生かし自主防災組織等を主体に訓練などの指導を徹底していきたい。



### 空き家対策をどうするか

村形 昌一 議員

今年度中に条例を制定したい

町長

#### 空き家の整備を図れ

空き家対策条例の設置は町長 当町としても今年度中に条例の設置を図っていく予定で、空き家の調査や所有者の適正管理を盛り込む予定だが重要なことはいかに実効性のあるものにしていくかで町民個々人の理解や地域ぐるみの協力が欠かせない。

空き家バンク等の利活用



急げ！空き家条例

の面からはどうする。  
町長 いかにしたら有効活用していただけるのか、他の自治体の状況等も参考にしながら、場合によっては空き家の購入やリフォームの際に補助金を交付する等の措置も必要かと思う。今後、多方面からの検討を行い、定住・若者対策などの施策に有効な手段としてもとらえ、条例や規則等の整備を行っていきたい。

国でも空き家再生等推進事業という空き家解体の補助制度がある。町内の空き家に対応できないか。  
町民税務課長 利活用ができないものは空き家条例で対応したいと考えている。

岩ヶ袋の空き家は住居か。  
町民税務課長 今年度から住居とは見なさず課税の減免を解除した。

新たな定住対策に手を付けられないでいる中、空き家の対策こそ即効性・実現性があるのではないかと。  
町長 地区民の盛り上がりからやっつけていければいいと思っています。町は情報づくりからやっつけていきます。

#### スポ少を育てよう

町の支援策や育成策は、

教育長 地域におけるスポーツの大衆化・生活化の出发点として意義の高いものであり自主性や人間形成の育成においても

大切と考えている。現在町内には6つのスポーツ少年団に148名の団員が、ついで活動を行っている。町では育成補助金の交付やスポーツ少年団指導者資格である「スポーツ少年団認定員」の取得費用の支援等を行っている。今後についても大石田町スポーツ少年団本部と連携して各少年団活動の活性化に向けた支援を行っていききたい。

町のバスを各種大会用に貸し出せないか。  
教育長 年に一度程度各団体に貸し出せるように検討させる。

スポ少の遠征時、車乗合の規制に緩和の動きはないか。  
教育長 事故に遭った子供の立場で考えると、県の指導もあり難しいと思う。

冬期間のクロカルリ利用法等を改善できないか  
産業振興課長 研究調査していききたい。